令和2年度 学校評価 自己評価書

あま市立美和小学校

1 総括

(1) 本校の教育目標

心身ともに健やかで、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図るとともに、心豊かな人間形成と自己実現をめざし、国際社会に貢献する児童の育成を図る。

<めざす児童像>

- ・ 考える子 …………… 自ら考え追究する力や自ら学ぶ姿勢を身につけ、
【力いっぱい】 自己実現に努める態度を養う。
- ・ 思いやりのある子 … 礼節を重んじ、豊かな人間関係づくりに努める態度
【笑顔いっぱい】 を養う。
- ・ がんばる子 …………… 命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生きぬく力を
【元気いっぱい】 養う。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 学習指導の充実

- ・ 児童の知的好奇心や探求心を大切にし、主体的に調べたり考えたり、自分の考えを説明したりする活動を取り入れた授業により、思考力や表現力を高める指導を工夫する。
- ・ 体験的活動や問題解決的活動などにより、児童にわかる喜びや学ぶことの楽しさと充実感を味わわせ、自ら学習する習慣づけを図る。
- ・ ユニバーサルデザインを意識し、学習に集中できる環境づくり、わかりやすい授業づくりに努める。
- ・ 少人数指導や TT 指導の指導方法を工夫し、個に応じた学習指導の充実を図る。

イ 豊かな心の育成

- ・ 生活の基本姿勢として、「時をまもり、場をきよめ、礼をただす」の指針のもと、あいさつをはじめとする基本的生活習慣の徹底を図る。
- ・ 道徳教育や人権教育の推進に努め、互いを尊重し認め合う児童を育てる。
- ・ 学級・学年の活動や児童会活動・異学年集団での活動を充実させ、よりよい集団づくりによって、自己の役割と可能性を見いださせ、相手を思いやる優しい心が身につくようにする。

ウ 健康・安全教育の充実

- ・ 健康で安全な生活を送るための基礎を培い、健康の保持増進と心身ともに健康な生活づくりに努める。
- ・ 生活アンケートや相談活動を充実させ、心と体の健康づくりを進める。
- ・ 「自分の命は自分で守る」という安全に対する意識や危機に対する認識を深め、自ら安全に行動できる力を育てる。

エ 家庭や地域との連携

- ・ コミュニティスクールを充実させ、地域の人材や教育力を学校教育に生かしながら互いの情報交換を活発にする。

- ・ 児童や保護者、地域の人々による学校評価および教職員による学校評価をもとに、積極的に情報を発信する。
- ・ 近隣の小中学校や幼稚園・保育園との連携を深め、小1ギャップ・中1ギャップの解消を図る。

オ 校内現職教育の推進

- ・ 道徳の時間の充実とともに、各教科・領域との横断的・総合的な教育を展開し、道徳的実践力を高める研究を推進する。
- ・ 外国語の学習活動やプログラミング的思考を培う学習をはじめ、授業研究を通して指導技術や学習効果の向上を図り、授業力の向上をめざす。

カ 多忙化解消にかかる取組

- ・ 教員が児童としっかり向き合い、質の高い授業や個に応じた指導を行っていくために、学校全体で組織的に、教員の担うべき業務の適正化を推進する。
- ・ ベテラン教員の知恵と若手教員の創造力を融合して、学校行事の精選を図り、小さな労力で大きな成果を生み出す工夫をする。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査期間 令和2年11月18日(水)～12月14日(月)

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象

・ 3～6年児童	264名／274名	・ 教職員	22名／22名	
・ 保護者	358名／402名			<u>計 644名</u>

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考察(アンケート結果より)

(1) 「先生は、基礎・基本を押さえた分かりやすい授業を工夫している」「先生は、子どもをよく理解し、真剣に対応している」「先生は、いつも広い心で子どもに接している」の項目についての、児童・保護者・教師の評価が高い。とりわけ、保護者の『よく当てはまる』の割合が伸びており、教師の丁寧な指導の様子が保護者に伝わっていることがわかる。

(2) 「お子さんは、いつも明るく、元気のよいあいさつができています」の項目は、児童・教師の評価が高くない。これは、コロナ禍の新しい生活様式において、大きな声でのあいさつができなくなったため、子どもたちには元気のよいあいさつへの戸惑いがあったためと考えられる。また、「お子さんは、進んで読書活動に取り組んでいる」の項目は、児童の評価の『よく当てはまる』だけを昨年と比較すると減少している。これは、新型コロナウイルス対策の一環として、今年度の前半まで、図書室が閉館しており、本好きの児童が十分に本を読むことができなかつたからだと考えられる。新しい生活様式が児童の生活に影響を与えていることが、学校評価からも分かる。

- (3) 「先生は、電話での問い合わせや学校を訪問した時に親切に対応している」「学校は、学校の様子を各種たよりやホームページでよく伝えている」「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」「学校は、保護者の悩みや相談に親身になって対応している」の項目の、保護者と教師の評価は、『よく当てはまる』『やや当てはまる』を合わせると、昨年度同様概ね8割を越えている。コロナウイルス対策や、学校行事の中止・内容変更等の各種案内文書やメール等で、細かく保護者に連絡を伝え続けたことが評価されたと考えられる。
- (4) 「家庭では、学校での出来事等を話題にして、親子でよく話し合いをしている」の項目は、『よく当てはまる』『やや当てはまる』を合わせると、昨年度とおよそ同様の評価ですが、児童の『よく当てはまる』だけをみると、減少している。これは、コロナウイルス対策として、多くの学校行事や授業参観が中止となったため、親子で学校の様子を話し合う機会が少なくなったためと考えられる。

5 課題と改善

- (1) 今年度は、新たにプログラミング教育の校内研修を立ち上げた。講師を招いて指導法を学習したり、授業内容の情報交換を行ったりした。今後も同様に、教科全般で教材研究や校内研修を充実させ、授業研究を全校体制で進めることで、基礎・基本を押さえた分かりやすい授業づくりを追求していく。また、個に応じた指導を大切にし、保護者や地域との連携を密にしながら、児童が安心して生活することができる学校づくりを行っていく。
- (2) 今年度はコロナウイルス対策として、朝の合唱や、授業、学校行事等での合唱への取組を行えていない。合唱の音の響き合いや、歌に込められた思いは、授業での鑑賞によって味わわせる工夫をした。また、本物にふれる驚きや美しさへの憧れ、心震わす感動などは芸術鑑賞会での体験を通して、豊かな感性の育成を目指した。今後は、コロナウイルスの感染拡大状況を注視しつつ、合唱に取り組む機会と方法を模索していく。
- (3) コロナ禍で大きな声が出せなかった今年度の後半には、あいさつを大切にされた基本的な生活習慣の育成を目指して、ゼスチャーや笑顔を返すことをあいさつに加える指導を行った。今後も、状況に合わせて、これらの工夫をしながら、教師自ら率先してあいさつを行っていく。
- (4) 本年度も、学校運営協議会の取組の一つとして、キャリア教育事業や読み聞かせ活動を行っている。今年度のキャリア教育事業は、地域で働いてみえる方々を講師に招いて卒業作品制作に取り組んだ。また、今年度の読み聞かせ活動は、保護者だけでなく、学生ボランティアも募って行った。今後も、学校運営協議会を中心に、児童にとって地域がより身近に感じられるような活動に取り組んでいく。